

# ミゾソバ

*Persicaria thunbergii*

タデ科



ミゾソバ

## 名前の由来

溝や湿地でよく見られ、葉や草の姿が蕎麦によく似ていることから名付けられた。別名でウシノヒタイとも言い、葉の形が牛の額に似ていることからついた。  
漢字名：溝蕎麦

## 形態的特徴

茎の下部は横に這い、上部は直立して高さ30~100cmほどになり、よく大きな群落をつくる。茎には下向きの刺がある。葉は基部が左右に広がった三角状の鈍（ほこ）形で、これが牛の額にたとえられる。葉柄の基部にロート状に茎

を取り囲む緑色で葉状の葉鞘がある。花は淡紅色で小さく、花被は5裂し、10~20個がひとまとまりになって頭状に茎頂につく。

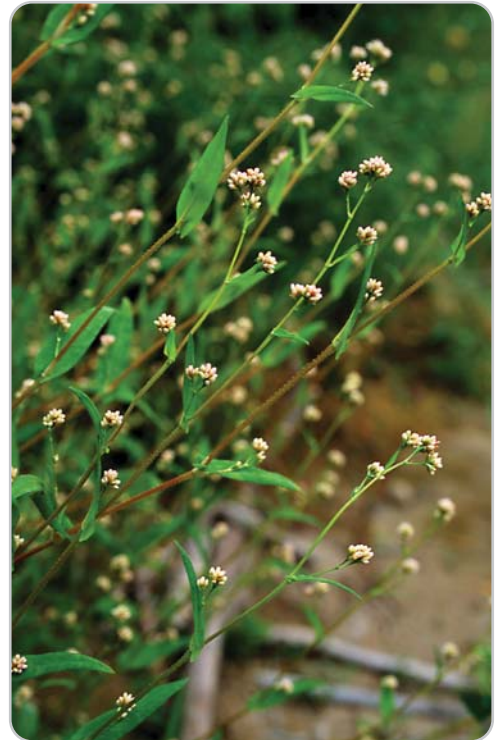
## 類似種と見分け方

タニソバ、アキノウナギツカミ、ヤノネグサ。タニソバの茎には刺が無く、葉の形は卵形に近い。また葉や花はミゾソバよりも小さい。アキノウナギツカミの葉は細長い矢尻

形になる。ヤノネグサの葉は基部が矢尻形を帯びているが、全体的に円みがあり、楕円形に近い。また、花や花柄に腺毛（毛先が球状になっている毛）がある。



ミゾソバ。牛の顔のような葉が特徴



類似種のアキノウナギツカミ。葉は細長い

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

水辺や湿地に生育し、よく群生する。

**分布：**国外分布は、アジア北東部。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、水辺や湿地で普通に見られる。ヤナギ林の中にも、日当たりのよい湿地にもよく生える。よく群生する。

## 生活史

開花時期：7～9月

開花までの年数：1年以内

寿命：1年草。

## 他生物との関わり

ハナアブやハナバチ、チョウ類が蜜を吸うため花を訪れて、花粉を他の個体に運び受粉させる。



花をつけたミゾソバ

## 興味深い話

■山のほうに生えるミゾソバは、開放花という普通に茎の先について咲く花以外に、閉鎖花という花を開かないものもつくる。

閉鎖花は主に地中にでき、地下茎をのばした先に雄しべも雌しべもそろった、一見つぼみのような花をつけ、その中で自家受粉して種子をつくる。

閉鎖花は、開花したり訪花昆虫を呼び寄せるための蜜をつくる必要がなく、また花粉も稔性が高く種子生産が容易である。しかし閉鎖花の中で自家受粉によりできた種子の形質は親と似ていて単一でもあり、生息環境の悪化などへの

適応度は低くなる。

普通の花である開放花は、昆虫による他個体からの花粉から受粉して、様々な形質を持った種子をつくって環境への適応度を高めることができるが、暗い森の中など訪花昆虫の少ない場所では、開放花のみでは種子生産が難しい場合がある。そのような時に種子を生産する救済手段として、種子生産が比較的容易な閉鎖化をつけて子孫を残そうとしているという。



ミゾソバ



出たばかりのミゾソバ

## 配慮事項

特になし。

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「トピックス ミゾソバ」 Newton special issue 植物の世界 第一号 平塚明 教育社 1988

魚類

底生動物

両生虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類